

Tokio Marine X少短

ビジネスデザイン部の横倉秀一氏に聞く 生損保一体型「総合生活支援保険」好調にスタート

Tokio Marine X少短は6月27日、ウェブ完結の生損保一体型保険「総合生活支援保険」の販売を開始した。複数の特約を脱着して補償を組合わせる新しいタイプの保険で、第一弾として同日に販売を開始したのは、カーローン返済支援保険と熱中症お見舞金保険。「両保険は、販売1週間で合わせて数百件の申し込みがあり好調だ。ウェブ完結型の生損保一体型保険は業界初で、今後に向けて複数の保険商品のプランもある」と話すビジネスデザイン部の横倉秀一氏に、商品開発の背景や今後のプラン、展望などを聞いた。

すでに新プランも複数検討中

——第一弾として「カーローン返済支援保険」を開発した理由は。
横倉 当社は、多くの顧客を抱える企業（ビジネスパートナー）のホワットとしての保険商品を提供することの保険会社として、新たな販売チャネル向けの保険商品を開発・提供することを目的に設立された。今回は、エンベデッド・インシユアランスの事例である「Payment Protection Insurance」に、ついても研究を重ねる中で、住宅ローン団信市場に比べ、カーローン団信

の浸透率が低い事実が判明したことが背景にある。実際顧客調査を行ってみると、「ニーズはあるが浸透していない」実態があることが分かり、「加入機会・導線を増やすことで届けるべき人に届けられないか」との考えから開発することを決めた。

——「カーローン返済支援保険」の加入の方法は。
横倉 当社の公式ホームページから申し込みが可能。また、フォルクスワーゲン・ファイナンシャル・サービス・ジャパン(株)と提携しており、VolkswagenまたはAudiで自動車を購入した方は、専用ウェブサイトで申し込みができる。今後もカーローン事業者をはじめとするビジネスパートナーの商品

までの補償特約を順次拡大することが基本路線。また、同時並行でベース基盤の拡張についても検討している。

——今後の商品開発に当たって考えられる例は。
横倉 今回の総合生活支援保険の展開で言えば、「働くドライバー支援保険」は、企業に属さない個人事業主やフリーランスの方が一方の病気やケガで就業不能となったときにかかる費用や所得減少をサポートするプラン。「所得減少に備える保険」は、病気やケガ、会社の倒産やリストラなど、万が一の身体的就業不能および非自発的失業時のリスクに備えるため、就業不能時にかかる費用をサポートするプランだ。

——そのほかには。
横倉 そのほか、「医療やがんの保険」…突然の病気やケガが生じたときにかかる費用をサポートするプランや「葬儀保険」…のこされた家族のために葬儀に係る費用やお墓や仏壇の購入にかかる費用をサポートするプランなども検討中だ。新規の商品開発にあたっては、商流に組み込むエンベデッドインシユアランスと巨大PFI/MH(プラットフォーマー・マーケットホルダー)へのホワイトレール型の商品供給の両輪を事業の柱としたいと考えている。



横倉氏

補先企業へのアプローチについては、まずは親会社である東京海上日動の提携先などに案内していく予定だ。

——今後への思いや展望を。
横倉 現在の心境として感慨深いのは、生損一体型約款の組成という保険業界140年近い歴史の中で、規制もあり今まで成し得なかったか、業界に対するインパクトの大きいチャレンジを達成できたこと。生・損・少短合計で200社近い保険会社すべてにインパクトを与える出来事と感じており、数十年後、仮に「生保」「損保」という垣根がない世界が到来した場合、この商品がその原型になると信じている。また、この大きなチャレンジを企画からローンチまで約9カ月で実現したことも、東京海上グループのR&Dビークルとしてスタートした当社にとつて、その存在意義を一定させたのではないかと考えている。今後も「革新的」な商品開発を、東京海上グループ内だけでなく業界内で「先進的」に「スピード感」を持ってチャレンジしていきたいと考えている。

——今後の商品開発に当たって考えられる例は。
横倉 今回の総合生活支援保険の展開で言えば、「働くドライバー支援保険」は、企業に属さない個人事業主やフリーランスの方が一方の病気やケガで就業不能となったときにかかる費用や所得減少をサポートするプラン。「所得減少に備える保険」は、病気やケガ、会社の倒産やリストラなど、万が一の身体的就業不能および非自発的失業時のリスクに備えるため、就業不能時にかかる費用をサポートするプランだ。